

平成24年10月30日
学校教育政策課

第1回福井県立高等学校改革検討委員会について

- 1 日時 平成24年10月26日(金) 13:00~15:00
場所 県庁7階 特別会議室
出席者 委員8名(別紙「委員名簿」参照、小松委員、寺岡委員欠席)
- 2 議題 本県における中高一貫教育の推進について
- 3 内容 (1) 福井県の高次教育について(高校教育課長)
(2) 併設型中高一貫教育校の設置について(学校教育政策課長、
県外中高一貫教育校校長)
(3) 意見交換
- 4 結果 ・併設型中高一貫教育の導入に向けて一歩踏み出すかたちで、検討委員会としての議論を進める。

・次回(11月12日(月)の午前予定)は、設置するとした場合に必要な準備や具体的な内容等について議論する。
- 5 主な発言
(1) 設置の目的、育成すべき生徒等について
 - ・ どのような人材を輩出したいかというスタートの議論が重要、単に併設型中高一貫校がないから作るということでは駄目
 - ・ 厳しい競争社会、グローバル化の進む国際社会を担うリーダーを育てる教育が必要である。
 - ・ 豊かな人間性、高い学力、コミュニケーション能力、社会貢献の意志をもつ人材の育成等、中等教育が本来目指すものに加えて、併設型中高一貫教育だからこそという目的を考える必要がある。
 - ・ 併設型中高一貫教育校の設置は、既存の学校にとっても刺激になる。
 - ・ 併設型中高一貫教育の導入により、子ども達のそれぞれの能力や、それぞれの個性に合わせた教育ができ、選択肢が広がることになる。

(2) 併設型中高一貫教育の成果について

- ・教育課程の弾力化による学力の定着、進学実績の向上はもちろんだが、「異年齢交流による社会性・人間性」にも注目すべきである。
- ・中高合同の学校行事、部活動、高校生が中学生の相談役になるチューター制度の導入等により、異年齢交流が促進される。

(3) 公立中学校への影響等について

- ・人口、中学校数が少ない等、都会と異なる福井の教育環境を踏まえ、以下の観点等に留意した議論が必要である。
 - ・優秀な生徒が県立中学校に行き、公立中学校のリーダーが少なくなることが心配されること
 - ・学級減、教員減により、公立中学校の活気がなくなることが心配されること
 - ・生徒指導等課題を抱えた生徒を公立中学校に戻さないこと

(4) 入学者選抜、学力差への対応について

- ・教育課程だけ先取り等の弾力化を進めて、中学入学時の学力検査はだめというのは時代遅れである。
- ・子どもの能力、努力を適正に評価する入学者選抜をするべきで、抽選など子どもの力ではどうしようもないものを入れるのは反対である。
- ・適性検査で入ってくる生徒の学力差はどうしても開きがちであるから、下位の生徒をフォローする仕組みが必要である。
- ・先を見通した教育を改革するということであれば、並行して、高校入試の改善もぜひ検討すべきである。

「県立高等学校改革検討委員会」名簿 (50 音順)

	氏 名	所 属 等	備 考
1	石 田 邦 明	静岡学園中学校・高等学校長	静岡県
2	岩 井 一	高槻中学校・高等学校長	大阪府
3	内 田 高 義	福井市教育長	福井市
4	掛 谷 龍 一	福井県高等学校 PTA 連合会長	福井市
5	吉 川 奈 奈	杉原・きっかわ法律事務所弁護士	福井市
6	小 松 郁 夫	玉川大学教職大学院教授	東京都
7	◎下 谷 政 弘	福井県立大学長	福井市
8	寺 岡 英 男	福井大学副学長	福井市
9	三 崎 静 代	勝山市教育委員	勝山市
10	山 本 久 徳	福井県 PTA 連合会長	大野市

◎委員長

事務局

小和田	和 義	福井県教育庁企画幹 (学校教育)
国 久	敏 弘	福井県教育庁学校教育政策課長
古 谷	清 和	福井県教育庁高校教育課長
上 野	弘	福井県教育庁義務教育課長
牧 田	秀 昭	福井県学校教育政策課主任
吉 田	繁	福井県学校教育政策課主任